

平成30年度事業報告書

1 園児童数	105名(定員90名)	年間	1,255名
0才児	ひよこぐみ(定員6名)	9名→7月(8名)	→9月(9名)
1才児	たんぽぽぐみ(定員12名)	12名	
2才児	すみれぐみ(定員18名)	18名	
3才児	ちゅうりっぷぐみ(定員18名)	22名→7月(21名)	→10月(22名)
4才児	ひまわりぐみ(定員18名)	22名	
5才児	さくらぐみ(定員18名)	22名	

2 職員

0才児	3名	主任保育士	1名
1才児	3名	副主任保育士(時差対応)	1名
2才児	3名	フリー保育士	1名
3才児	2名	調理員	6名(4名パート)
4才児	1名	看護師	1名(兼0歳児)
5才児	1名	時間外保育士	4名(パート)
園長	1名	(1名は子育て支援を兼ねる)	
事務長	1名	事務員	1名(パート)
一時保育	2名(2名パート)	内科・歯科嘱託医	各1名
子育て支援	3名(2名パートの内1名は時間外保育士を兼ねる)		

3 保育目標

元気で明るい子

やさしく思いやりのある子

豊かな感性をもつ子

自立心のある子

4 保育内容

- (1) 3歳未満児童の年齢・月齢、一人一人に応じた保育計画を作成した。
- (2) 月案・日案は担当保育士が作成し、月案は毎月の職員会議で協議し、園長の承諾を得て実行した。
- (3) 日案は児童の様子、天候などにより臨機応変に対応した。

- (4) 年間の保育計画は、クラス全体の発達段階を考慮し、養護・教育（5領域）について細部まで全職員で検討し、協議のうえ決定した。
- (5) 近くの上平公園等の自然環境に恵まれた立地条件を大いに活かし、戸外での遊びや散歩をたくさん取り入れて、体力づくりをするとともに、自然の移り変わりを自分の五感を通して覚えていくように働きかけることができた。地域を回ることで知り合いになったりお友達になったりして交流を深めるとともに社会性を養えた。
近くの特養ホームに出かけ演技や歌を披露し、地域交流ができた。（4歳児）
近隣に住むボランティア希望者や保育実習生を積極的に受け入れた。これにより、保育園に対する理解や関心を深めるとともに、保育後継者の養成にも努めた。
- (6) 季節ごとに集会行事を行い、四季の移り変わりや四季折々の楽しみを知らせ、日本の文化や伝統を大切にすることを養うことができた。
- (7) 講師を招いての体操指導により、3歳以上の園児は、体力向上だけでなくがんばる力・できた喜びを感じ自信につなげることができた。さらに、身の危険な事物を察知し事故を未然に防ぐ手段を身につけたり、困難を乗り越えたりする粘り強さを養うことで、特に年長児においては、就学前の大きな収穫となった。
- (8) 講師を招いてリズム指導を行い、体力向上と発達段階の課題解決に取り組み、成果を挙げることができた。
- (9) 講師を招いて書道に取り組み、文字等への関心を高めることができた。このことで、5歳児の就学に向けた取り組みの一つとなった。
- (10) 鍵盤ハーモニカをはじめ楽器に触れる機会を増やし、音楽やリズムを楽しむことができた。
- (11) 季節ごとの花・樹木・虫などの美しさや不思議さを感じることを通して興味を持たせた。
- (12) 保護者の保育士体験により子育てに関する共通理解を深めることができた。
- (13) 子育て支援センター（さくらんぼ）では、年齢別の講座（親子遊び、制作等）、身体測定、誕生日会等の子育て支援事業を通して育児情報を提供したり育児相談に応じたりする活動を行った。さらに、「公園で遊ぼう」では、上平公園において親子で触れ合うイベントを催し、地域主催の「親子の集い」においては、外に開かれた子育て事業を推進することができた。
- (14) 一時保育室を併設することにより短期間の保育、緊急時の保育に対応して保護者の子育てを支援することができた。
- (15) 園だより、クラスだより、行事等の写真、ホームページを通してさつき保育園、子育て支援事業（さくらんぼ）、一時保育（おひさま）の情報を充実させ、保護者の信頼を得ることができた。